

(2) 異学年による交流

ア 言語活動での交流

複式学級の特徴を生かした指導を実現させるために、異学年同士が共通に取り組む言語活動を設定し、相手意識を明確にして学習できるようにしている。

言語活動の交流を行う際には、上の学年の子供は下の学年の子供に分かるような表現（話し方・書き方・きき方）を、下の学年の子供は上の学年の子供の表現に注目することを意識させることが重要である。



第3学年 「こまを楽しむ」

第4学年 「動いて、考えて、また動く」

3年生は、友達や4年生が「いいね」と共感するように感想を発表する言語活動。4年生は、友達や3年生が「なるほど」と納得するように考えを発表する言語活動。

第5学年 「生き物は円柱形」

第6学年 「時計の時間と心の時間」

5年生は、筆者の考えの進め方についての自分の考えを6年生に発表する言語活動。6年生は、「時間」について、自分の考えの具体例を挙げながら5年生に発表する言語活動。

イ 振り返りの交流

多様な考えを共有できるようにするために、異学年同士と一緒に学習の振り返りができる場を設定している。

その際、両学年の指導事項をそろえることで、上の学年の子供は前学年の学習内容と関連付けて理解をより一層確かなものとし、下の学年の子供は、今後の学習の見通しや発展的な学習につながると考えている。



「このように」と、書いてあったけど終わりの段落ではないことが分かりました。(4年生)

「このように」って書いてあったら、終わりの段落だよ。どうして？なんでだろう？(3年生)

第3学年 教材名「こまを楽しむ」

第4学年 教材名「動いて、考えて、また動く」

3年生は、文章の大体を捉える。4年生は、段落同士のつながりを捉える。「このように」について、これまでとは違った捉え方があることに気付いている3年生の様子。